



＝日本国憲法 第九条＝
《 戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認 》

戦争をしない国で

未来に希望のある生活を



い行為です。世界の風潮に流されず、唯一の被爆国であり平和憲法を持つ日本は毅然として平和を貫かねばならないと思います。

・自民党の改憲草案は国民から主権を奪うもの
新しい戦前と言われ久しいが今まさに世界が戦争へと向かっています。日本も例外ではなく憲法改正だ、防衛費増額だ、武器輸出だと騒いでいます。自民党がいう憲法改正は国民から主権を奪い、戦争の出来る国にしようとするものです。自衛隊を明記したり、緊急事態条項を明記すれば政権の思うままになってしまいます。戦争は最大の人権侵害であり、ひとたび始まってしまえば終わらせるのが非常に難しく、何年にもわたり人々の生活すべてが奪われるのです。命も、家もインフラも全てを破壊し、夢も自由も奪い、食料や薬も不足し私たちを蝕んでいくのです。80年前の太平洋戦争と全く同じです。いや、多くを輸入に頼って

・武力は抑止力にならない
武力による威嚇は相互不信をよぶばかりで平和は創れないのです。国民は膨大な防衛費に苦しめられるばかりです。平和憲法を基に各国とは平和条約を駆使し日本は戦争をする気はありませんよ、ということをやアピールしていかなくてはならないと思います。

世界の風潮に流されてはいけない

このように戦争は悲惨なことになるにやまず。人と人の殺し合いは絶対にやってはいけません。

小原八枝子

野田・九条の会は、憲法九条を生かし、守ろうという思いを同じくする人達から賛同金をいただいで活動しています。賛同いただいでいる皆様ありがとうございます。私たちは「戦争しない・させない」、そして平和な社会を子どもたちに引き継がねばなりません。高齢化の現実と上手に付き合いつつ頑張らなければいけないと思っております。

【野田・九条の会】 賛同者の皆様へ

つきましてはこの「九条通信」をより良いものにするために、皆さまから原稿をお寄せいただきたくお願いいたします。戦争の体験や体験者からきいたこと、今の政権に言いたいこと、若い人に伝えたいこと、日々の不安や疑問等々自由な内容で400字程度の原稿をお待ちしております。

< 寄稿・お問合せは上部誌名の右側事務局へお願いします。 >



今月の予定です



10月6日(日) 13:30～16:50

DVD視聴と 映画 新藤兼人監督「第五福竜丸」
意見交換 視聴後ディスカッション

南部梅郷公民館

南地域九条の会

10月9日(水) 16:00～17:00

9の日
行動

九条通信配布とアピール

梅郷駅 自由通路

野田・九条の会

10月12日(土) 13:30～16:00

野田・九条の会
10月例会

意見交換「野党は新政権に何をさせるか」

中央公民館 講座室

野田・九条の会

10月19日(土) 13:30～15:30

自由参加

ちょっと軽やかな
「おしゃべりカフェ」

政治や社会のこと気軽に
おしゃべりしましょう。

イオンノア3階 第2会議室

野田・九条の会

11月3日(日) 13:30～16:50

DVD視聴と
意見交換

在留外国人300万人突破！日本の未来を考える！
あなたの隣人になりたい

南部梅郷公民館

南地域九条の会

平和コンサート

✕ 平和のつどい ✕

主催：平和のための戦争展・のだ実行委員会

ピアノ&トークでショパンの思いを



崔 善愛 福岡県出身 明治学院大学非常勤
チェ・ソウエ 講師 日本ペンクラブ会員など

今年の平和のつどいの催しはピアノコンサートです。祖国ポーランドを追われたショパンが望郷の思いを込め作曲した曲をピアニスト チェ・ソウエさんが自身の体験と思いを込め演奏して語ります。誰もが一度は聞いたことがあるショパンの曲が一層胸に迫ってくることでしょう。是非ご都合をつけてお出かけください。

2024年11月2日(土) 13:30開場 14:00開演
樺のホール3階 小ホール

○ 協力券 大人 1,500円 子ども 500円 (小・中学生)

*当日は空調設備工事中のため冷暖房が効きません。ご了承ください。
*駐車場が少ないため電車・バスなどを利用しておこしください。

問合せ先 04-7129-4297 (田口)

戦時下 日本の科学者



関一

✂ 武器はその時代の先端科学技術を集約して作られる。原爆開発に携わったR. オッペンハイマーは彼の名を表題にした映画で描かれたように現代物理学の発展と共に開発、広島・長崎の惨劇をもたらした。E. テラーが推進した水爆は第五福竜丸事件を、さらに第四の被爆—海上保安官の被爆—を引き起こした。科学技術はデュアルユース(善悪どちらへも利用可能)だが核分裂は平和利用と称して発電に使われるも手に負えない代物だ。

✂ 戦時下の日本で、科学者に対して軍事研究に協力するように要請した一人、陸軍科学研究所々長多田礼吉中将は、大学と軍部の関係を密にして、科学者へ戦争協力を促した。著名な物理学者湯川秀樹、朝永振一郎も兵器開発と無縁ではない。湯川は理化学研究所を立ち上げた仁科芳雄らと共に原爆研究を行った。朝永はヒトラー政権下のドイツで量子論の創始者W. ハイゼンベルクの下へ留学(軍事研究ではない)。当時のドイツ市民同様にナチスに対して特には疑念を抱かなかつたらしい。後に小谷正雄と軍事利用可能なレーダーに用いる真空管の研究に携わった。戦後、湯川は自ら詠んだ和歌に「、、平和を守るほかに道無し」としたため、朝永と共に平和を希求するようになる。

⚖ 1949年、学問の戦争協力への反省から文理を統合した日本学術会議が設けられ、日本物理学会は「内外を問わず、一切の軍隊から援助、その他一切の協力関係を持たない」という決議を採択(1967年)した。自公政権下、学術会議に関して2020年に6名の会員に対して政府が任命拒否した事案が発生。安保法制問題、緊急事態条項、さらに憲法改悪、防衛力強化への流れの中で、軍産学協力への圧が加速、懸念される。

/// 広島に行ってきました 日佐戸 陽子

8月4～6日原水爆禁止2024年世界大会、原爆死没者慰霊式平和祈念式に出席してきました。チラシを手にして1か月、何も知らないのに行っているのか、先はわからないけど今なら歩ける、行けるかなと揺れ動き、締め切り後に申し込みました。10～70代、90人の原水禁千葉県代表团として新幹線で初見の女性6人で行動を共にしました。

初日は世界大会のグリーンアリーナへ。関東甲信越エリアに着席、各県のぼり旗多数、次々に席が埋まっていきます。閉会后歩いて30分のホテルに荷物を置いて原爆記念資料館へ。人影の石、三輪車と鉄かぶと・・・多くの人々が来ています。

2日目は路面電車で分科会会場へ。夕方は「核兵器をなくそう女性のつどい」へ。若い方や小中

高生がたくさん次々にステージにあがりアピール。最後”we shall overcome”を会場全体で歌いました。

3日目、平和記念式典会場へ。手荷物検査の列が進まず始まってしまい、声だけで何も見えません。猛暑で汗が止まらずボランティアの方から冷たい水を受け取り生き返った心地でした。

あの原爆の時の人たちが水を求めたということが頭をよぎりました。

タクシーの運転手さんから「大本営は東京だけじゃなくて広島にもあった」と聞き意味が分からず、軍都だったからとのこと。「来るなら勉強して来い」と。

知らないことが多過ぎます。でもこの機会が与えられたことに感謝します。来年は被爆80年、記念の年。広島は本当に暑いですがご一緒しませんか。

we shall overcome